第❶日　孟軻『孟子』

解答

問一　Ⅰ＝⑤　Ⅱ＝②　Ⅲ＝④　Ⅳ＝①　Ⅴ＝③
問二　④
問三　②
問四　③
問五　①
問六　③
問七　②

書き下し文

告子曰はく、性は猶ほ杞柳のごときなり。義は猶ほ桮棬のごときなり。人の性を以て仁義を為すは、猶ほ杞柳を以て桮棬を為るがごとし と。孟子曰はく、子能く杞柳の性に順ひて、以て桮棬を為るか。将た杞柳を戕賊して、而る後に以て桮棬を為るか。如し将た杞柳を戕賊して、以て桮棬を為らば、則ち亦た将た人を戕賊して、以て仁義を為すか。天下の人を率ゐて、仁義に禍する者は、必ず子の言なるかな と。

告子曰はく、性は猶ほ湍水のごときなり。諸を東方に決すれば、則ち東流し、諸を西方に決すれば、則ち西流す。人の性の善不善を分かつこと無きは、猶ほ水の東西を分かつこと無きがごときなり と。孟子曰はく、水は信に東西を分かつこと無きも、上下を分かつこと無からんや。人の性の善なるは、猶ほ水の下きに就くがごときなり。人善ならざること有る無く、水下らざること有る無し。今夫れ水は、搏ちて之を躍らせば、顙を過ぎしむべく、激して之を行れば、山に在らしむべし。是れ豈に水の性ならんや。其の勢則ち然るなり。人の不善を為さしむべきは、其の性も亦た猶ほ是くのごときなり と。

通釈

告子が言った、人間の本性はちょうどあの水辺に生えるカワヤナギのようなもので《どのようにでも曲げることができるので》ある。人間の本性を仁義《という道徳》とするのは、ちょうど《そのカワヤナギで作る》曲げ物のようなものだ。《その故に、》人間の本性を矯めて仁義を行うのは、カワヤナギを曲げて曲げ物を作るようなものである、と。孟子が《これに反駁して》言った、それではあなたはカワヤナギの本性に従って曲げ物を作るのか。それともカワヤナギの本性を無理にそこねて曲げ物を作るのか。もしもカワヤナギの本性を無理にそこねて《切ったり削ったりして》曲げ物を作るのだとすると、人間の場合も同じように人間本来のもちまえを矯め殺して仁義の道を行うのだと考えるのか。《もしそんなふうに考えるならそれこそとんでもない思い違いだ。》天下の人々を残らず誘いこんで仁義の道にわざわいを及ぼすものは、きっとあなたの言論だろうよ、と。

告子が言った、人間の本性はぐるぐる渦巻いて流れる水のようなものだ。《渦巻いている水は流れる方向が決まっていないから》これを東に《堰を》切って落とせば東に流れて行くし、西に《堰を》切って落とせば西に流れて行く。人間の本性もこれと同じで初めから善悪の区別があるわけではなく、ちょうど水には東に流れるか西に流れるかの区別がないのと同じ《で、人間も人為でいかようにもなるもの》だ、と。孟子が《これにもまた反駁して》言った、たしかに《あなたが言うように》水には東に流れるか西に流れるかの区別がないのは本当であるが、しかし高い方に流れるか低い方

に流れるかの区別までもないことがあろうか、いやそんなことはあるまい。人間の本性が元来善であるということは、ちょうど水が本来低い方へ流れるのと同じようなものである。だからこそ人間の本性にはだれしも不善なものはなく、水には低い方に流れて行かないものはないのだ。しかし今もし、その水でも手で打ってはねとばせば、《水しぶきは》人の額よりも高く上げることができるし、流れをせき止めてはげしく逆流させれば、山の頂上までも押し上げることができるだろう。《だがしかし》それがどうして水の本性であろうか、いやそうではない。外から加えられた勢いによってそうなったまでのことである。人間を時として不善の行為に走らせることがありうるのは、決してその本性ではなくて、これと同じ《で利害とか財物などの外からの勢力に激発されるから、つい不善の行為に走ってしまうの》である、と。

解法

問一　いずれも文脈を十分に考慮した上で最適な語を選ぶ。Ⅰはこの部分に何もなくても文意が通じるのであと回しにして残ったものを入れる。Ⅱは文末の「夫」が詠嘆の終助詞であることから「きっと……であることよ」の「きっと」に相当する語、Ⅲは「水は本当に東に流れるか西に流れるかの区別がない」の「本当に」に相当する語、Ⅳは文末「――哉」に注目すると反語を表す語、Ⅴは「また同じように」と訳す語（→第21日　発展学習）を入れるとよい。

問二　該当部分に続く孟子の発言がその部分を一応肯定した上で反論していることを理解すれば、孟子の発言の「無分於東西」から解答が導き出せる。

問三　人間の本性の自然の勢いとともに、水の自然の流れをいう。

問四　「戕賊人」は「人間本来のもちまえをねじ曲げる」の意。まっすぐなカワヤナギの板を曲げて丸い器を作ることが比喩となっている。

問五　「其勢」は「外から加えられた勢い」の意にとるとよい。水をはねとばしたりせき止めたりすることなどをいう。

問六　水しぶきが高く上がったり、逆流して山の頂上まで上がったりすることは水の本性ではない。不善の行為に走ることは人間の本性ではない。時としてその本性に反するのは、という文脈になっている。

問七　水が低きに流れるのが自然の姿であるように、人は善行を積むのが自然の姿であるといっている。ズバリ「人性之善也」（10行目）と述べられている。①の性悪説は荀子、③の兼愛説は墨子が唱えた説。

発展学習

1行目　**猶**　「猶ほ……の（が）ごとし」と読む再読文字。同じ用法に「由」がある。

4行目　**如**　ここでは仮定の用法。

5行目　**子**　二人称。「あなた」の意。

7行目　**諸**　指示語の「之」と方向・対象などを表す前置詞「乎（於）」の合字で「之乎」が「ショ」と発音されることから、同音の「諸」をあてて書いたもの。

11行目　**今**　ここでは仮定の用法。仮定の「今」に呼応して「躍之」を「之を躍らせば」と仮定条件に読んでいる。